

和田春樹東大名誉教授講演会

朝鮮半島の平和・非核化と 日本の平和との関わり



講師 和田春樹氏

プロフィール

歴史学者、社会学者、
市民運動家。専門はソ連
史・ロシア史・朝鮮史。
東京大学名誉教授。

日時：2018年11月2日（金）

18時30分

（開場18時）

会場：東大工学部2号館

221号講義室

参加費：無料



北朝鮮ミサイル基地—秋田・萩—ハワイ・グアム
米軍基地の地理的位置

米国政府・米軍が配備候補地をなぜ秋田・萩の
こだわるのか、この図から読み取れるだろう。イ
ービス・アショアは日本を守るためではなく、ア
メリカを守ることを目的とした配備計画であると
しか言いようがない。（福留高明氏のFacebook
より）



主催

- ・東京大学教職員組合
- ・戦争法廃止をめざす東大有志の会
- ・安保法制廃止を求める東京大学人
アピール 実行委員会 (UT-CAS)

問い合わせ先

電話 (03) 5841-7971

東京大学教職員組合

E-mail: syokikyoku@tousyoku.org

主催者より

朝鮮半島の平和、非核化は日本の平和と深く関わっており、日本はこの問題とどう向き合うべきなのかを考える機会として、以下のような趣旨から朝鮮史の専門家である和田春樹東大名譽教授をお招きしての講演会を企画いたしました。

朝鮮半島問題では昨年米朝の対立は激化し、12月には戦争が勃発するとまで言われていましたが、それから1年足らずの今年6月12日に両国トップが握手をし、これから平和をめざそうという合意がなされました。

これについて朝鮮史の専門家である和田春樹東大名譽教授は「1986年のレイキャビクでのゴルバチョフ、レーガン会談に近い。歴史的、画期的な会談だ。この地域に住む私たちにとっても大事だと思う。」と評価し、「日朝国交樹立を加速すべき」と述べています。

また元内閣官房副長官補の柳澤協二氏は「この問題は圧力一辺倒では解決しない。別のやり方、褒美を与え自ら進んで非核化してもらうことで、いずれこの道筋を通ると思っていた。平昌五輪を契機に金正恩がオファーを出し、それにトランプが答えて局面が変わった。問題解決の道筋としては正しい選択だった。この流れは止められないと思う。」「北朝鮮と米国の対立関係が解消すれば、在日米軍の駐留の意味は半分なくなる。」「日米同盟強化以外の選択肢を模索するときだ。」と述べています。(いずれもサンデー毎日、2018年6月12日号)

9月19日に行われた南北首脳会談では、4月の首脳会談での「一切の敵対行為を全面中止」「非武装地帯を実質的な平和地帯としてゆく」ことを明記した板門店宣言をさらに具体化し、板門店の共同警備区域の非武装化や遺骨発掘調査なども盛り込まれた「合意」がされました。

また同日行われた南北軍事トップ会談では、共同警備区域の地雷撤去作業を出発点とし、軍事合意が体系的かつ正常に進むよう相互に努力してゆくことなどの「軍事分野の合意書」が交わされました。この「軍事分野の合意書」について姜尚中氏は「実質的には不可侵条約に近いもので、朝鮮半島の陸海空に関し、一定の範囲において軍事行動が取れないようにする緩衝地帯を設定しました。万が一米朝関係が決裂しても、米軍の一方的な軍事行動を事実上抑制する安全装置をつくったということです。」と評価しています。(AERA、2018年10月1日号)。

~~~~~

テーマ : 朝鮮半島の平和・非核化と日本の平和との関わり  
—朝鮮半島の平和のプロセスに日本としてどう関わるべきか—

講師: 和田春樹東大名譽教授

日程: 2018年11月2日(金)18時30分より (18時開場)

場所: 東京大学工学部 2号館 221号講義室

主催: 東京大学教職員組合、戦争法廃止をめざす東大有志の会、UT-CAS

~~~~~